



月刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (222) 7207 番

93.1.4 No. 3717

1. 労働千葉旗びぎに集まる

一九九三年労働千葉旗びらきが、一月一日(月)一三時より、千葉県労働者福祉センターで行われる。

国鉄「分割・民営化」攻撃から一〇年、JR発足から五年を経過して、あらゆる面から崩壊の道を雪崩落ちる「分割・民営化」体制の決定的危機は、昨年象徴的かつ具体的なものとして表面化した。

「JR東日本鉄道部門五万人体制」攻撃、「貨物八〇〇〇人体制」攻撃とは、その意味において第二の「分割・民営化」攻撃であり、大合理化による洗い直しに他ならない!

一方における「JR体制」の瓦解、JR総連の切り捨てとその波及は、今や東日本・貨物へと着実に伸長している。昨年、西日本においてJR西労が「動乗勤」導入に「反対」し、その母体そのものの東鉄労は、率先して東日本で動乗勤改悪を妥結していくなどということがある、どんな道理をもってしても通るはずがないのだ。更に亀裂と分裂は止め度もなく進むことは自明の理だ。

こうした状況を切り拓いたものこそ、われわれ労働千葉が、動労「本部」から分離・独立し、真に闘う労働の伝統を継承し、全解雇者の不屈の闘いとJR本体の闘いの結合が生み出したものと確信を持って言える。その意味からこそ、われわれこそが「分割・民営化」攻撃一〇年を検証し、それを打倒し、国鉄労働運動を再生できる勢力なのだ。

この一〇年間の経過と闘いの上にとって、

踏切安全闘争に決起しよう!

とりわけ反合・運転保安確立の闘いが、今最も求められている。安全を無視し、人命をも顧みない徹底した合理化の嵐と、事故隠蔽にさえはしるJR当局の姿勢に対し、われわれは命を守る安全運動闘争に決起しなければならぬ!

12.21貨物協議会総会開催 貨物合理化粉碎へ奮闘の時

二月二一日、千葉県観光物産センターにおいて、貨物協議会総会が開催された。

総会議長に服部君を選出したあと、冒頭あいさつに立った関貨物協議会会長は、「分割・民営化」から六年目に入り矛盾が吹き出している。「分・民」を検証しそのことを訴えていく」と力強く訴えた。

続いて本部を代表して田中書記長より、「貨物協議会を結成してから丸二年が経ち、本領を発揮する時がきている。『JR体制』の再編成という時期の中、的確な情勢を見据え、来年春の『ダイ改』、『時短』、『動乗勤改悪』などあらゆる闘いの山場に力を出して欲しい。又、貨物協議会の任務は、貨物の抱える問題に対し動労千葉内での発言力を増大させることであり、その力を対会社との団体交

次の一〇年間に展望した反転攻勢の闘いへ組織の総力をあげて決起しよう!

渉に発揮し、動労千葉総体を牽引することだ」と提起が行われた。経過報告・運動方針(案)の提起後、質疑応答に入り……

①、列車混雑時、貨物列車は置き去りにされる。運行について同列に順番通りの確保をするよう東日本へ強行に申し入れるべきだ!

②、年末手当二・六ヶ月という格差は許せない。今後の対処、考え方について

③、基地統廃合問題について動向はどうか? などの意見等が出された。今総会において貨物協議会は、「貨物八千人体制」―基地統廃合攻撃、五五歳出向攻撃、「時短」―「動乗勤改悪」、あらゆる格差粉碎へ向け、全員が学習し、来春決戦へ決起していくことが確認された。

